

前年度の改善方策について実行した改善結果

学校だより「花の子 令和元年度・3月号」に巻頭「教育目標」ごとに児童の成長、変容に視点を当てた振り返りとして掲載

今年度の桜丘小の教育活動を振り返って — 学校関係者評価委員会の協議を受けて —

保護者・地域の皆様、今年度も本校の教育活動に対して、ご理解ご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今年度当初の保護者会全体会で校長よりお示しいたしました「学校経営計画」や学校要覧でお伝えした教育目標等を学校関係者評価アンケートの評価結果や学校関係者評価委員会での協議を基に、本校の「教育目標」ごとに児童の成長・変容に視点を当てて振り返させていただきます。

※以下、学校関係者評価アンケート（児童）＝関係者評価（児童）、学校関係者評価アンケート（保護者）＝関係者評価（保護者）、学校関係者評価アンケート（地域）＝関係者評価（地域）と表記します。

※下記の中での「肯定的評価」とは、学校関係者評価アンケートの回答で「とても思う」と「思う」の合計を示しています。

重点教育目標「豊かな心をもった子」思いやりのある優しい子ども 【あいさつ・人権】

- ・関係者評価（児童）の「わたしは、すすんであいさつしている。」の肯定的評価が89%（昨年度87%）、関係者評価（保護者）の「私の子どもは、よくあいさつしている。」の肯定的評価は、83%（昨年度82%）、さらには、関係者評価（地域）の「子どもたちは、よくあいさつをしている。」の肯定的評価が81%（昨年度69%）という結果で、挨拶に関する項目は全て昨年度を上回る結果となりました。
- ・関係者評価（児童）の「わたしは、自分と友達を大切にしている。」の肯定的評価が96%（昨年度94%）でした。関係者評価（保護者）の「私の子どもは、自分と友達を大切にしている。」の肯定的評価は、97%（昨年度96%）、という結果でした。



成果として、教育目標「豊かな心をもった子」の基本行動として「気持ちのこもったあいさつを行う」ことが全校朝会のあいさつ宣言や登校時のあいさつ運動等をとおして子供たちに浸透していること、そして実際に結びついていること、挨拶することが習慣化されていることといえます。また、保護者や地域の方から高い評価をいただいたということから学校以外の場所でも実践できていることがうかがえます。これは、保護者や地域の方が子供たちに挨拶をとおして積極的に関わっていただいたおかげです。保護者の方と地域の方が学校の教育目標を共有し共に子供たちを育てるという視点をもたれていますことに心より感謝申し上げます。学校関係者評価委員会での協議では、挨拶するときにきちんと止まって丁寧にお辞儀をする子がいて素晴らしいというお褒めの言葉をいただきました。また、挨拶だけでなく返事もしっかりできるようになってほしいというご意見もいただいたので今後も指導してまいります。来年度、更なる向上を目指して今年度以上に教職員が率先して挨拶を行い、子供たちを大切にしていきます。また、世田谷区道徳教育センター校として「特別の教科 道徳」の研究を通じて、子供たちの「豊かな心の育成」に取り組んできました。特に人や社会との関わりに関する「親切・思いやり」「公正・公平」「感謝」「礼儀」「よりよい学校生活」等の内容項目に重点を置き授業をとおして「自分と友達を大切にする」という心情、実践意欲と態度を育ててきました。

重点 教育目標「豊かな心をもった子」〈德育〉思いやりのある優しい子ども【生活指導面】

・関係者評価（児童）の「わたしは、きまりを守って行動している。」の肯定的評価が86%（昨年度87%）でした。関係者評価（保護者）の「本校では、社会のルールを守ることについて子どもたちに指導が行われている。」の肯定的評価は、94%（昨年度92%）、「本校では、子どもたちに問題となる行動が少ない。」の肯定的評価は、79%（昨年度74%）、さらに、関係者評価（地域）の「通学している子どもたちは、社会のルールを守っている。」の肯定的評価が88%（昨年度82%）、「通学している子どもたちは、問題となる行動が少ない。」の肯定的評価は、88%（昨年度82%）、という結果すべて昨年度を上回る結果となりました。



生活のルール「花の子スタンダード2019」の徹底指導が定着してきたといえます。また、朝会等における校長の講話、校長の学校経営方針に沿った教員の一貫した指導（具体的な場面を提示し褒めたり、指導したりする。目指すことを明確にする。児童の学校生活アンケートの記述（いじめ等の児童の困り感の把握）に即対応する。児童の見守り体制の確立等）を行うことが、問題行動の未然防止につながってきたことが成果であると考えます。更なる改善に向けて「教員のいないところには子供はいない。子供がいるところには教員がいる。」を合言葉に安全面だけでなく、子供たちにとっての安心感や、問題行動の未然防止に教職員一丸となって努めてまいります。学校関係者評価委員会での協議では、問題行動についての評価について低学年に比べると、高学年の方が評価が低くなっていることや、学級によって（担任の指導によって）評価に差があることの指摘を受けました。今後も教員一人一人の対応力の向上を目指すことと同時に、問題行動等については、担任一人だけに任せず、学年、学校と組織的に対応することを引き続き行い、改善に向けて取り組んでまいります。

教育目標 よく考える子〈知育〉ものごとをよく考え、向上しようとする子ども【学習指導】

・関係者評価（児童）の「授業の内容は、よく分かる。」の肯定的評価が、91%（昨年度91%）、「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」の肯定的評価が88%（昨年度82%）と高い評価を得ています。関係者評価（保護者）の「本校では、子どもたちにとってわかりやすい授業が行われている。」では、肯定的評価が89%（昨年度89%）、「本校では、授業をとおして、子どもたちに学力がついている。」の肯定的評価は、84%（昨年度85%）でした。



学習指導について児童、保護者の方から共に高い評価をいただきました。成果として保護者会全体会で校長より説明があった「学校経営計画」に基づき、児童一人一人の実態を把握し、それに応じた授業改善、学習環境、学習支援を実践してきました。また、学校全体で「児童自ら学び、共に高め合う授業」の実践を目指して、各教員が個人テーマを設定し、それに向けて授業改善を図ってきました。さらに、教員間の育成体制の重視、学年の教員間での協力体制の拡充を行ってまいりました。保護者の皆様には、学校から出された家庭学習を毎日丁寧に見ていただきました。心より感謝申し上げます。この学校と家庭の連携が子供の安定した授業態度に結びついていると考えます。

今後の課題として学力向上への対策を明確にし、一人一人の力を伸ばしていくことです。「誰一人置き去りにしない教育」として、少人数指導（補充的・発展的学習）、花の子クラブ、取り出し授業、算数のT・T、すまいるルームの活用等、個に応じた指導・支援を行っていきます。併せて教員の授業力向上に努めてまいります。

教育目標 健康な子〈体育〉体を丈夫にし、明るい心をもつ子ども に関連した項目

- ・関係者評価（児童）の「わたしは、外で元気よく遊んでいる。」の肯定的評価が、87%（昨年度85%）、「わたしは、「早寝、早起き、朝ご飯」ができている。」の肯定的評価が74%（昨年度73%）でした。関係者評価（保護者）の「私の子どもは、よく外遊びや運動をしている。」では、肯定的評価が75%（昨年度76%）、「私は、子どもに「早寝、早起き、朝ご飯」を努めさせている。」の肯定的評価は、91%（昨年度90%）でした。



- ・世田谷区教育ビジョン「心と体の元気アップ『世田谷3快プログラム～快眠・快食・快運動』」の下、学校・家庭・地域が協力・連携を図り、健康や食育の指導をとおして、健康やよりよい食についての知識や食習慣を身に付けさせることを推進してきました。この一環として、学校保健委員会で本校の栄養士が、食の重要性を講演し、保護者の方へ伝達できたことは成果であったと考えております。
- ・外遊びについては、児童の評価は高く、保護者の評価は低いという状況があります。学校関係者評価委員会での協議の中で学校では休み時間遊んでいるが、家庭では家の中で遊んだり、習い事等で遊ぶ時間がなかったりすることがあるとのご意見をいただきました。このことから、学校での外遊びの機会を大切にしていく必要があると考えます。また、子供たちの中には学校においても、外より教室や図書室での遊びを好む児童もいることから、校庭でのクラス遊びや遊び方の提供、「花の子体力づくり」等をとおして運動への関心を高める活動の充実を今後の課題として取り組んでいきます。

学校運営について

- ・関係者評価（児童）の「毎日の学校生活が楽しい。」の肯定的評価が、91%（昨年度88%）、「桜丘小学校が好きである。」の肯定的評価が92%（昨年度91%）でした。関係者評価（保護者）の「学校の重点目標が明確である。」では、肯定的評価が89%（昨年度89%）「校長は、リーダーシップを発揮している。」の肯定的評価は、93%（昨年度93%）でした。さらに、関係者評価（地域）の「校長は、リーダーシップを発揮している。」の肯定的評価が100%（昨年度96%）、という結果でした。
- また、本アンケートの保護者様の回収率は99%と昨年度を上回る結果となりました。



- ・学校の重点目標、校長のリーダーシップに対する評価は保護者、地域の方とも高い評価をいただきました。校長による年度当初の保護者会全体会での重点目標の説明、災害時における対応等は、保護者様にとって概ね明確な内容として伝わっているのではないかと考えております。
- ・児童の学校への満足度が高いといえます。児童が学校で大切にされているということや、児童にとって不満に思うこと（学習面、友人関係、担任との関係等）の解消がされているということが概ねいえるのではないかと考えます。
- ・校長のリーダーシップのもと学校経営方針に沿って教職員は、実現に向けて取り組んでいます。また、アンケートの回収率の高さから保護者・地域の皆様の学校教育への関心の高さを実感するとともに、信頼関係で結びついていると考えさせていただきたいと思います。日頃のご理解ご協力に深く感謝申し上げます。

地域・保護者との連携について

- ・関係者評価（児童）の「わたしは、地域の方々との交流学習が楽しい。」の肯定的評価が、79%（昨年度82%）、関係者評価（保護者）の「本校は、地域の人材や施設を教育活動に活かしている。」では、肯定的評価が79%（昨年度80%）関係者評価（地域）の「地域の人材や施設を教育活動に活かしている。」の肯定的評価が77%（昨年度78%）という結果でした。
- ・関係者評価（保護者）の「私は、ボランティアとして、学校の教育活動に協力していきたい。」の肯定的評価は、78%（昨年度73%）でした。教育ボランティア以外の項目では、少し評価が下がる結果となりました。



- ・地域や保護者の方との外部人材活用授業を展開する場合、まずは授業のねらいを授業に協力いただける地域や保護者の方と共有し、同じ方向を向いて指導に当たることが重要であると考えています。そのためには授業にいらしてくださる方と学年の担当が授業のねらい等について共通理解できる打ち合わせを行うことを教員に指導しました。授業では子供たちにとって「地域の方が教えてくれて詳しいことが分かった。」「地域の方が方法を教えてくれたので学習が楽しくなった」等、深い学びにつながるよう授業の展開を教員が工夫する必要があります。また、人材活用授業が継続・発展できるように学年で記録を残し、反省を行い、来年度の担任に申し送りをするようにしました。
- ・来年度から実施される文部科学省が示している新学習指導要領では『「より良い学校教育を通じてより良い社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められている資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域と学校の連携・協働の推進が重要』と示されています。この実現に向けて今後も、保護者・地域の皆様に引き続きご協力いただき、子供たちとともに育ててまいりたいと思います。来年度もどうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。最後になりましたが、今年度も多くの保護者・地域の皆様に様々な授業、行事、支援等にご協力いただきました。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。